



■ 反転された“シクフォニらしさ”が問う、正しさと違和感の境界

本作のMVでは、シクフォニメンバーイラストの1部が「反転」された状態で登場しています。普段見慣れているはずのシクフォニが、どこか“違う”。けれど、確かにシクフォニである、そんな微細な違和感が映像全体を通して漂います。これは、見ている人の中にある「見慣れたはずのものがズレて見える」感覚を刺激する演出であり、果たしてこの存在は“本当のシクフォニ”なのか、それとも“そうではない何か”なのか。その問いを、楽曲と共に体験してほしいというメッセージが込められています。見えるものすら曖昧にするこのMVの構造が、「名前のない楽曲」というコンセプトと密接にリンクしている作品となっております。

■ 言葉にならない感情を描いた、唯一無二の世界観

新曲 は、これまでのシクフォニの楽曲とは一線を画す世界観が特徴です。この楽曲に描かれているのは、記憶の断片のような、明確には言語化されない感覚の積み重ね。まるで誰かの夢の中に入り込んでしまったような、不穏さと静けさを併せ持ったサウンドが広がり、聴く者にさまざまな感情を喚起させます。“孤独”“不安”“違和感”“言えなかった気持ち”“声にならない痛み”そういったものが描かれていると感じるかもしれません。けれど、それすらも明言されておらず、あくまでそこにあるのは、解釈される前の「揺らぎ」であり、その“曖昧さ”こそが、この作品の核となっております。さらにこの楽曲には、物語的な構成が施されており、歌詞を読むだけでは分からない仕掛けが散りばめられています。音と言葉、そして“無音”の意味にすらストーリー性が。繰り返し聴くことで、まったく違う印象が生まれたり、あるいは「自分の物語」として再構築できる、「鑑賞する音楽」ではなく「感じる音楽」となっております。

■ タイトルがないからこそ、無限に広がる解釈

「タイトルがあるから、物語が始まる」その“常識”を疑うことで、シクフォニは全く新しい音楽の入り口を提示しています。タイトルという枠をあえて外すことで、聴き手の解釈は無限に広がり、それぞれの人生や記憶に寄り添った「自分だけの曲」として、この楽曲は生き始めます。そして最後には、その“無限の解釈”の中から、ファンと共にたったひとつの“読み方”を選ぶ。まさに、音楽と物語の境界線を、ファンと共に再定義していく瞬間となることでしょう。ジャンルや常識にとらわれない新しい挑戦を続けていくシクフォニに今後ご注目ください。

■ シクフォニとは



超大型オーディションを潜り抜けた最強の6人による2.5次元タレントグループ。2022年8月、オリジナル曲「JOKER×JOK3R」を引っ提げて衝撃的なデビューを飾る。その音楽性や企画力の高さを武器に、様々なオリジナルソングや、歌や声を使ったチャレンジ企画動画、「歌ってみた」と呼ばれるカバーソングなどの投稿をメインに活動している。結成から2年でチャンネル登録者数は100万人を超えており、急速に人気を集め、勢力を拡大している新進気鋭の6人組。その勢いは留まることを知らない。

2025年10月26日（日）にはグループ初となる3DライブをYouTubeにて全世界全編無料配信を予定している。さらには、3Dライブとリンクした生身ライブを11月に大阪・おおきにアリーナ舞洲にて2公演、12月に東京・LaLa arena TOKYO-BAYにて2公演を開催予定。

<メンバー> 名前横の括弧内は読み方

(上段左から) LAN (らん)、すち、みこと

(下段左から) 暇72 (ひまなつ)、雨乃こさめ (あめのこさめ)、いるま

Press Release

シクフォニ広報事務局



▼シクフォニ公式X

https://x.com/sixfonia_info

▼シクフォニ公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/@sixfonia>

▼シクフォニ公式TikTok

https://www.tiktok.com/@sixfonia_info

▼シクフォニ公式Instagram

https://www.instagram.com/sixfonia_info/